

平成 29 年 11 月 30 日

V I A X 児童部会

平成 29 年度 第 4 回「お話（素話）から学ぶ」報告書

1. 日 時 平成 29 年 11 月 17 日（金）14：00～16：00
 2. 場 所 ヴィアックス研修センター（鳩山ビル 6F）
 3. 参 加 者 19 名
 4. 配布資料 素話発表会演目一覧
 5. 課題図書 『レクチャーブック お話入門 1 お話とは』
松岡享子／著 東京子ども図書館 2009 年（新装改訂版）
 6. 内 容
 - (1) 事務局より、以下の点について説明があった
「お話から学ぶ」（お話（素話）についての知識を深める）（お話（素話）を語る力と、聞く力を育てる）（「語りを志す人に」）について
 - (2) A～E の班に分かれ、参考図書 p90～p99（「たくさん聞く」まで）を読んで話し合い、発表を行った。以下、各グループの発表内容である。
- A 班
- ・ 語り手らしさとは？演目の選び方でも語り手の個性が出る。
 - ・ 「好き」＝個性でもある。
 - ・ 仕事の為に語るという場合もある。
 - ・ 語りくらべ→同じお話でも、語る人によって印象が違う。聞き比べるとわかる。
 - ・ 語り手が反映される、お話にも反映される。
- B 班
- ・ お話は古い芸術でもある、芸術として楽しむ。
 - ・ 最初の事は技術的困難にぶつかる事も多いが、二年くらいたつと、自分らしい語りができるようになれるのなら、楽しみである。
 - ・ 良い語り手の話をたくさん聞く。
 - ・ 6 年経験者より…やっているうちに自分に合う話も見えてくる。

C 班

- ・ 仕事だからといってイヤイヤでやっている、聞き手に伝わってしまう。
- ・ 同じ話でも語り手によって違う（年齢や性別）
- ・ 聞き手の反応で、話がふくらまずに終わってしまう。
- ・ 聞き手と語り手で、場を共に作っている。

D 班

- ・ 心を動かすならやった方がよい。
- ・ コミュニケーション能力を育てる
- ・ 勉強の会等は、「勉強」を出しすぎず、わいわい楽しく行くとよい。
- ・ 同じ話でも何度も繰り返し語ることで、語り手は成長する。

（疑問）公共図書のおはなし会では、同じ話を何度もするのは難しいのでは？

子どもは良いが、保護者が良く思わないかもしれない。

→学校支援などで、学年別に同じ話を行える場所があるとよい。

E 班

- ・ 語り…たくさん楽しみましょう。考えすぎると語りが楽しめなくなる。
- ・ 子ども達の反応を見るも大事（7分の素話が長いと感じる子もいる）

（疑問）語っている最中に真っ白になってしまった時はどうすれば？

→安心のためにテキストを用意しておくといよい。周りの人も助けてあげる。

（3） 語りの時間

折り紙話『しあわせの青い鳥』（事務局：A）

<参考文献> 『親子で遊べるおりがみーおりがみとペーパーマジックー増補改正版』

ブティック社 2009

- （4） A～E の班に分かれ、参考図書 p99～p104（「おわりに」まで）を読んで話し合うとともに参考文献についても読み込み、意見を出し合った。その後発表を行った。
以下、各グループの発表内容である。

A 班

- ・ 参考書をそれぞれ見てみると、『ストーリーテラーへの道』（ルース・ソーヤ著）には手厳しさがある
- ・ 自分にとって合うお話、合わないお話の見極めも大事だが、まず、語ってみることが大事

B 班

- ・ 参考書を見てみると、海外の人のものが多い
- ・ お話を選ぶことや、実践することが大事
- ・ 好きなお話をし続ければ見えてくるものがある

C 班

- ・ いきなりお話を始めるより、レクチャーブック等を読んだほうがお話をする意義が少しはわかる気がする
- ・ 参考書として選ぶなら『子どもたちをお話の世界へ』（アイリーン・コルウェル著）が良い。実体験が綴ってあるので、共感しやすそう。

D 班

- ・ テキストには気楽に行うな、誠実であれと書かれている
- ・ お話をする発端は「好き」や「楽しさ」が大事であり、お話をすることは誠意である
- ・ お話の性質によるが、身振り手振りを交えたほうがよいお話もあれば、交えないほうが良いお話もある
- ・ 2年目以降の課題

E 班

- ・ 実践した上で得たもの、先人の知恵の大事さ
→自分らしさのあるお話を語れるようになる（昇華する）
子どもの反応を感じながら行うことも大事である
→独りよがりにならないように気をつける

(5)

1月、3月の2回にわけて実施する「素話発表会」のプログラムを話し合っ決めて

(6) 所感

語り手は、楽しいと感じて行うことが大事だと感じた。また、自身の技術が足りなくとも、経験を積むことで、誰でも良い語り手に成長していくことが出来ることを知った。

図書館によっては、おはなし会でお話を語る機会が少ない、という図書館員もいるかもしれないが、語る機会があればいつでも出来るように準備を怠らずにいたい。また、語り手と聞き手がお話を一緒に楽しめるよう、日々努力していきたいと感じた。

<参考文献>

- ・ 『ストーリーテラーへの道』 ルース・ソーヤ著 日本図書館協会 1973
- ・ 『子どもたちをお話の世界へ』 アイリーン・コルウェル著 こぐま社 1996
- ・ 『子どもと本の世界に生きて』 アイリーン・コルウェル著 こぐま社 1994
- ・ 『ストーリーテリングについて』 ユーラリー・スタインメッツ・ロス著 子ども文庫の会
1966